



はまなか なおき
濱中 直樹

東京大学官学連携事業について

Q 令和5年度教育委員会所管の事業は。

(課長) A 大久野小では6年間を通して「共生社会の中で生きる力を育てる学習プログラム」を検討。6年生道徳科で研究授業を行う。本宿小では人権尊重教育研究指定校として、6年生総合的な学習の時間において「共に生きる」高齢者が暮らしやすいまちを目指して」をテーマに、東京大学大学院と協働で授業づくり、実験を行った。

Q この授業プログラムは、長期間継続することで最大限の効果を得られると考えるが、いかがか。

(課長) A 息長く学校に浸透し、継続していくことが大事。

Q 令和5年度いきいき健康課所管事業は。

(課長) A 町民対象に「高齢者・認知症にやさしい地域づくりのためのニーズ調査」を実施。

健康づくり推進委員定例会で認知症VRプログラム、Nimproカード体験会を実施。

Q 令和6年度以降の展開について。

(課長) A 実績を基に、町内小中学校で、高齢者理解の教育が広がるよう取組の拡充、教員研修等の実施を検討。リーフレットやeラーニングプログラムを活用し、町民に接する場の提供を検討。

Q 当該官学連携は付加価値の高い事業か。

(町長) A 当該事業は肯定的な連携事業の一つである。今までとは違う形で、非常に色々な気づきのできる良いパートナーで、継続していきたい。



はなわ こうへい
埜 康平

移住・定住・関係人口・交流人口・人口減少について

Q お試し移住・お試し住宅制度について町の考えは。

(課長) A 現在、お試し移住・お試し住宅制度の事業は行っていないが、令和5年度中に策定予定の「日の出町空家等対策計画」の策定状況を踏まえ、移住・定住施策の取組に活かせるよう検討していきたいと考えている。

Q 日の出町は泊まれる場所の数が少ないため、滞在しながら町を知っていくことが難しい。せっかく日の出町に来て、泊まる際には青梅市やあきる野市の方に行ってしまうが見解は。

(課長) A 現状は、そのような場所がないため、やむを得ないと思っている。

Q 日の出町の知名度は非常に低いと思われるが、町はどう捉えているか。

(課長) A 知名度を上げることに主眼を置いて取組は行っていないのが現在の状況。各種の事業を進めていくことにより、町民の皆様それぞれの自分にとっての幸せ（ウェルビーイング）を実現できるように努めていきたいと考えている。このことが結果的に日の出町の知名度を向上させていくのではないかと考えている。

